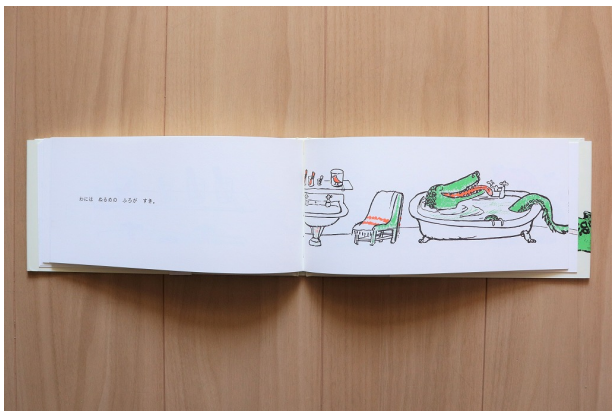
なわてBOOKS【２０２１年４月号】

今月も恵文社一乗寺店の能邨さんが、この時期にオススメする３冊の素敵な絵本を選書してくださいましたので順にご紹介致します。

『みんなのおすし』　　作：はらぺこめがね/ポプラ社/2019 年 10 月刊行

食べ物を題材にした大胆な設定と絵が魅力の作者によるお寿司やさんの絵本です。もちろんただのお寿司やさんではなく、左に握りを出す大将の手、右側にそれを受け取るお客さんの手が描かれるのですが、折りたたまれたページをめくると、そのお客さんは鬼だったり狼だったりと、ギャップに子どもたちが喜びそうな**ちょっとした仕掛けが施されています**。めくり仕掛け絵本とでもいうのでしょうか、**賑やかでおいしそうな絵本**です。

『わにのなみだはうそなきなみだ』作：アンドレ・フランソワ/ロクリン社/2020 年９月刊行



フランスのグラフィックデザイナー・イラストレーターのフランソワによる洒落た作品です。なぜワニの涙はうそ泣きなのか、という出だしから始まり、ナイル川からヨーロッパに連れられてきたワニの生活をユーモアいっぱいに描写しています。実際に英語でも「クロコダイル ティアーズ」という言い方があるそうですが、その慣用句を**作者ならではのウィットで空想のお話に仕立てた内容が面白く、判型もワニに合わせて横長で、洗練された絵の雰囲気も魅力**かと思います。当店でもワニの絵本（ワニ絵本と呼んでます）はいくつか種類があり、お子さんに一定の人気があります。

『ぼくがふえをふいたら』　　作：阿部海太/岩波書店/2020 年 11 月刊行

鮮やかで流れるような、それでいて奥底にある何か深いものを呼び覚ますような色彩が特徴の作者による絵本です。少年が笛を吹き、猿が太鼓を叩き、犬が遠吠えをし…言葉は短いものですが、重なる音を実際に感じられるような混淆とした絵の力が見る者に強く伝わります。阿部さんは、**神話や原初の記憶のようなもの、五感やそれに伴う気づきなどを大切にしている**作風が魅力の人で、当店でも根強い人気を保つ絵本です。

【なわて BOOKS】
毎月、京都の恵文社一乗寺店さんからなわて幼稚園の図書室に届く、スタッフがお薦めする最新の絵本や話題の絵本をご紹介しています。

【恵文社一乗寺店】
２０１０年にイギリスのガーディアン紙が発表した「世界でもっとも素晴らしい書店１０選」に日本から唯一選ばれた京都・一乗寺にある書店。

http://www.keibunsha-books.com/